

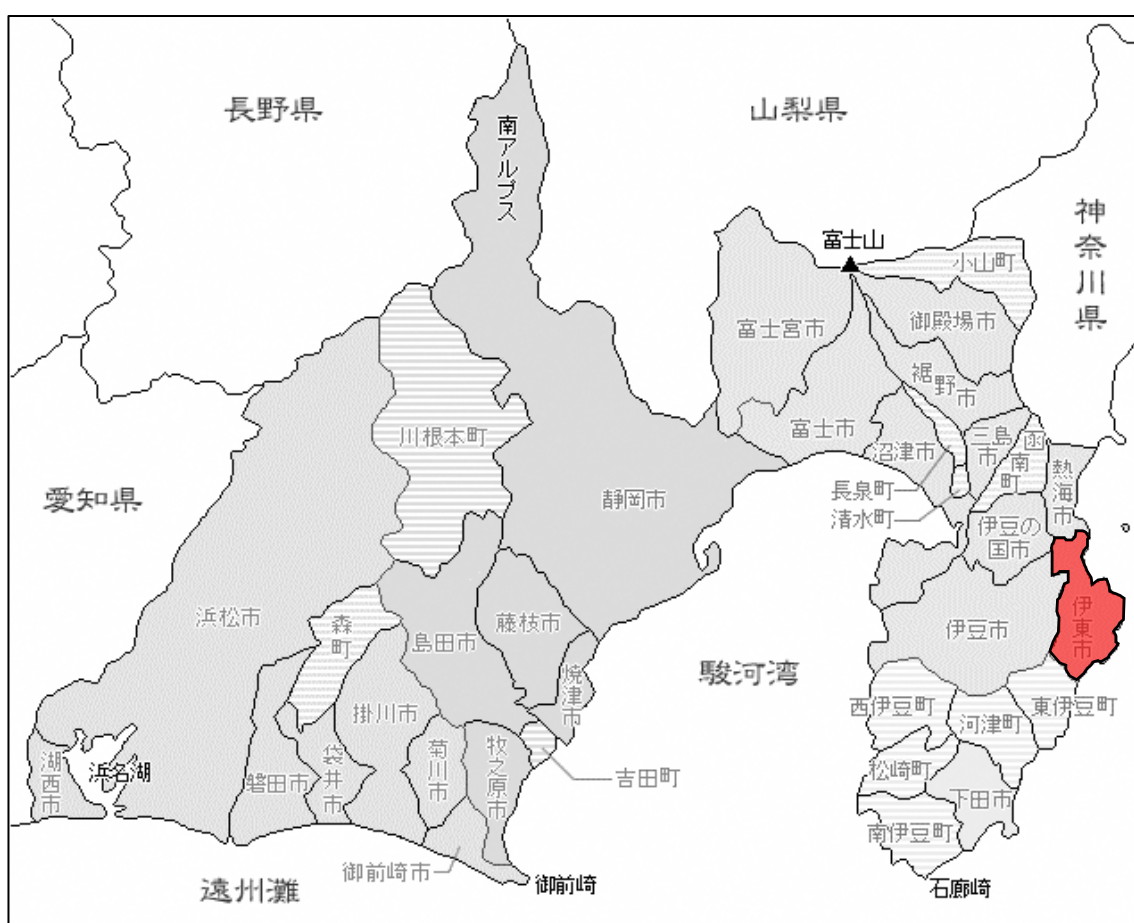
## 第2章 伊東市の概要

### 2-1 地勢・位置・面積

本市は、静岡県 の最東端、伊豆半島の東に位置し、市域の44.7%が「富士箱根伊豆国立公園区域」に指定される風光明媚な地域であり、東は相模灘に面し、北は熱海市、西は伊豆の国市、伊豆市、南は賀茂郡東伊豆町に接しています。市域は、東西10.45km、南北20.45kmと南北に長く、海岸線はおよそ40kmに及んでおり、面積は124.02㎦で県下23市のうち13番目の広さです。

また、全国有数の湧出量を誇る温泉地である本市は、伊東八景等の地域資源に恵まれ、その雄大な自然は四季折々の色鮮やかな彩りを見せるなど、私たちの暮らしに潤いと安らぎを与えています。

本市の位置は図2-1に示すとおりです。



位置図（図2-1）

## 2-2 人口動態

本市の人口は、令和2年度末では、35,441世帯、67,396人、1世帯当たりの世帯人員は1.90人でしたが、令和6年度末では、35,696世帯、63,974人、世帯人員1.79人となり、世帯数が増加傾向であるのに対し、1世帯当たりの世帯人員は減少傾向を示しています。

年齢構成をみると年少人口（0～14歳）は、令和3年3月31日住民基本台帳では、8.20%、令和7年3月31日住民基本台帳では、6.99%と減少傾向となっています。

また、老年人口（65歳以上）は、令和3年3月31日住民基本台帳では、42.89%、令和7年3月31日住民基本台帳では44.39%と、高齢化の動きは加速しています。

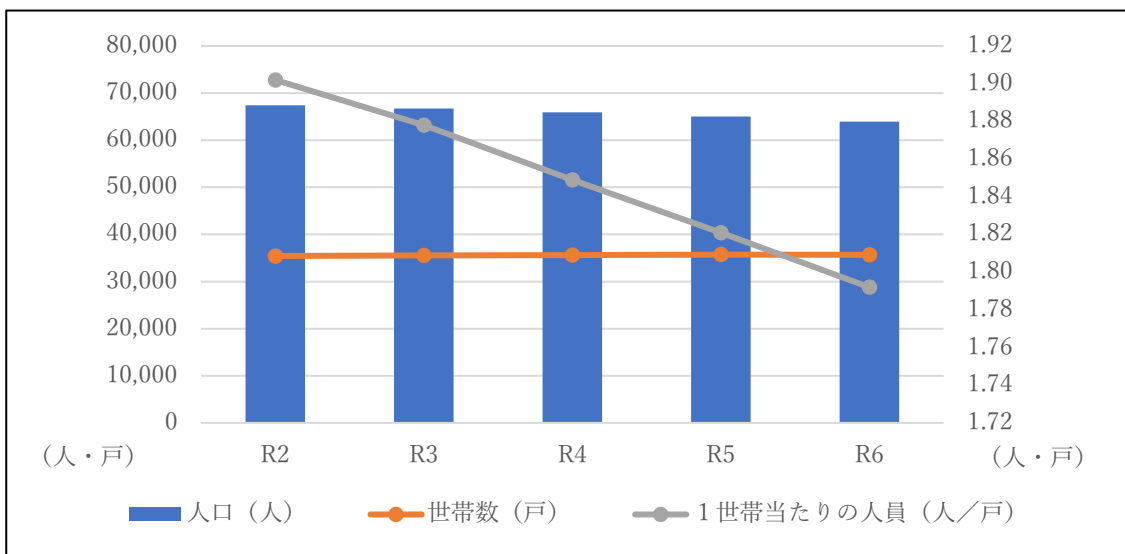
総務省統計局が発表している全国の年齢3区分別人口及び割合（2024年）によると65歳以上の割合は29.3%となっており、本市の高齢化率が約15ポイント高い結果となっています。

人口及び世帯数の推移並びに年齢層別人口については、表2-1、図2-2及び表2-2に示すとおりです。

表2-1 人口及び世帯数の推移

年度	人口（人）	世帯数（戸）	1世帯当たりの人員（人／戸）
R2	67,396	35,441	1.90
R3	66,708	35,526	1.88
R4	65,927	35,646	1.85
R5	65,035	35,719	1.82
R6	63,974	35,696	1.79

（資料：住民基本台帳、人口、世帯数は各年度末（3/31時点））



人口及び世帯数の推移（図2-2）

表 2 - 2 年齢層別人口

年齢区分	令和 2 年度 (人)	令和 6 年度 (人)	増減 (人)	構成比 (%)	
	〔 R3. 3. 31 〕 〔 住民基本台帳 〕	〔 R7. 3. 31 〕 〔 住民基本台帳 〕		令和 2 年度	令和 6 年度
0～14 歳	5, 525	4, 474	△ 1, 051	8. 20	6. 99
15～19 歳	2, 475	2, 195	△ 280	3. 67	3. 43
20～24 歳	2, 221	2, 101	△ 120	3. 30	3. 28
25～29 歳	1, 988	1, 840	△ 148	2. 95	2. 88
30～34 歳	2, 173	1, 920	△ 253	3. 22	3. 00
35～39 歳	2, 558	2, 274	△ 284	3. 80	3. 55
40～44 歳	3, 222	2, 730	△ 492	4. 78	4. 27
45～49 歳	4, 688	3, 596	△ 1, 092	6. 96	5. 62
50～54 歳	4, 842	4, 988	146	7. 18	7. 80
55～59 歳	4, 322	4, 879	557	6. 41	7. 63
60～64 歳	4, 475	4, 582	107	6. 64	7. 16
65 歳以上	28, 907	28, 395	△ 512	42. 89	44. 39
総数	67, 396	63, 974	△ 3, 422	100. 00	100. 00

(令和 2 年度住民基本台帳及び令和 6 年度住民基本台帳)

### 2 - 3 産業の動向

本市の産業別就業者数は、令和 2 年国勢調査によると、第 1 次産業が 7 1 2 人（構成比 2. 5 6 %）、第 2 次産業が 3, 5 3 7 人（同 1 2. 7 2 %）、第 3 次産業が 2 3, 3 8 2 人（同 8 4. 1 1 %）となっており、静岡県と比較すると建設業、製造業などの第 2 次産業の比率が低く、サービス業をはじめとした第 3 次産業の比率が高くなっています。

また、平成 2 2 年から令和 2 年にかけて、第 1 次産業から第 3 次産業のいずれも就業者数が減少しています。

産業別事業所数においては、平成 2 8 年と令和 3 年を比較すると、多くの区分で減少が見られるものの、教育、学習支援業などの区分が事業者数、従業者数ともに増加傾向であり、また、医療、福祉などの区分においても前回調査とほぼ変わらない数値となっています。

産業別就業者数等の推移については表 2 - 3、図 2 - 3 及び図 2 - 4 に、産業別事業所数の推移は表 2 - 4 に示すとおりです。

表 2-3 産業別就業者数の推移

(単位：上段・人、下段・%)

区分	平成 22 年		平成 27 年		令和 2 年	
	伊東市	静岡県	伊東市	静岡県	伊東市	静岡県
就業者数	32,277 100.00	1,897,194 100.00	30,836 100.00	1,865,154 100.00	27,799 100.00	1,817,048 100.00
第 1 次産業	810 2.51	77,478 4.08	789 2.56	70,905 3.80	712 2.56	63,034 3.47
第 2 次産業	4,312 13.36	623,180 32.85	3,966 12.86	600,751 32.21	3,537 12.72	583,871 32.13
第 3 次産業	26,207 81.19	1,147,043 60.46	24,762 80.30	1,136,779 60.95	23,382 84.11	1,141,032 62.80
その他	948 2.94	49,493 2.61	1,319 4.28	56,719 3.04	168 0.61	29,111 1.60

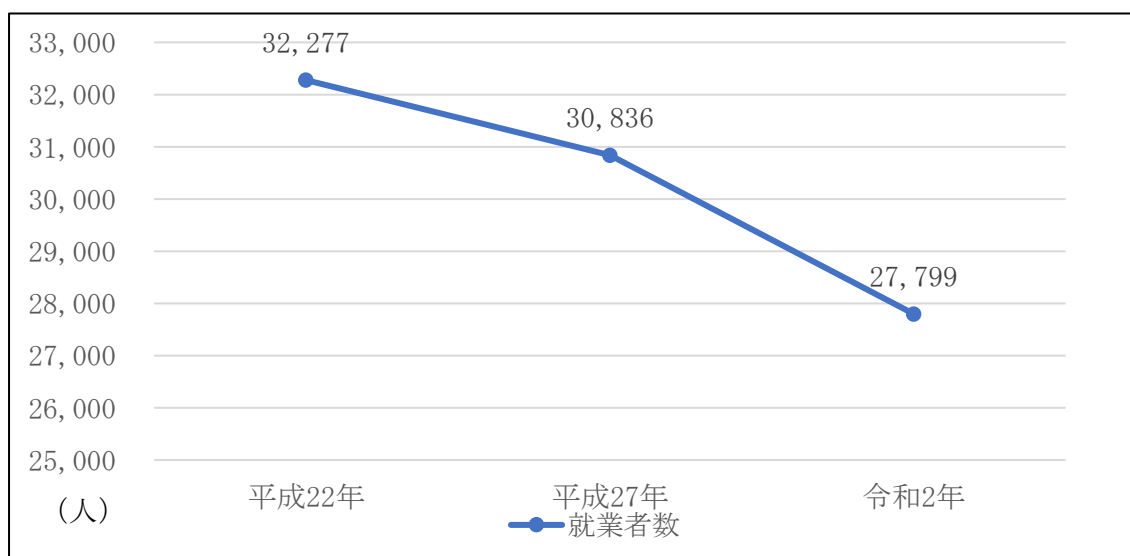
(平成 22 年、平成 27 年、令和 2 年国勢調査)

※ 第 1 次産業：農業、林業、漁業

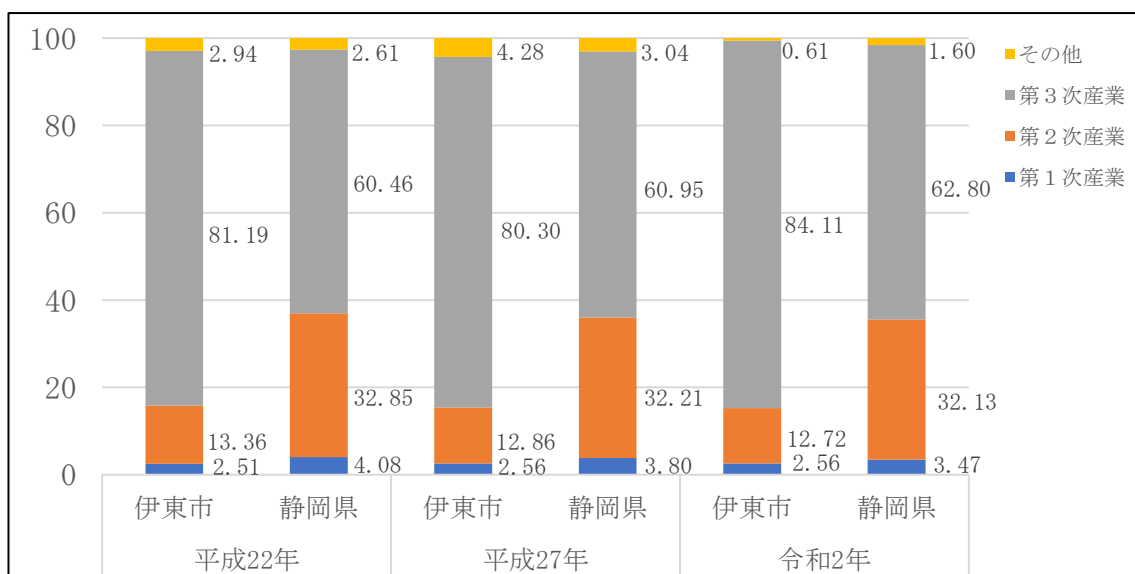
第 2 次産業：鉱業、採石業、砂利採取業、建設業、製造業

第 3 次産業：電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、郵便業、卸売業、小売業、金融業、保険業、不動産業、物品賃貸業、学術研究、専門・技術サービス業、宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業、教育・学習支援業、医療・福祉、複合サービス事業、サービス業（他に分類されないもの）、公務（他に分類されるものを除く）

そ の 他：分類不能の産業（主として調査票の記入不備）



伊東市産業別就業者数の推移 (図 2-3)



産業別就業者割合の推移 (図 2-4)

表 2-4 産業別事業所数の推移

区分	平成28年		令和3年	
	事業所数	従業者数 (人)	事業所数	従業者数 (人)
産業大分類				
総数	4,295	27,919	3,919	27,501
農業、林業	13	71	17	95
漁業	1	10	1	9
鉱業・採石業・砂利採取業	—	—	—	—
建設業	423	1,922	389	2,403
製造業	154	898	137	825
電気・ガス・熱供給・水道業	8	233	10	70
情報通信業	23	168	21	134
運輸業、郵便業	52	1,314	42	784
卸売業、小売業	1,028	5,859	900	5,502
金融業、保険業	48	455	48	440
不動産業、物品賃貸業	352	1,089	312	972
学術研究、専門・技術サービス業	111	351	115	345
宿泊業、飲食サービス業	1,018	6,894	861	6,262
生活関連サービス業、娯楽業	399	1,714	375	1,794
教育、学習支援業	132	507	141	1,169
医療、福祉	286	4,296	288	4,219
複合サービス事業	27	429	24	401
サービス業 (他に分類されるものを除く)	220	1,709	238	2,077
公務 (他に分類されるものを除く)	—	—	—	—

(平成28年、令和3年経済センサス活動調査)

## 2-4 観光の動向

本市は全国有数の湧出量を誇る温泉資源を有し、国際観光温泉文化都市に指定されています。また、市域の4割が富士箱根伊豆国立公園地域に属するなど、海・山・川・湖の自然、景観にも恵まれており、これらの地域資源を生かした観光を基幹産業として発展してきました。

しかし、新型コロナウイルスの感染者が令和2年1月に国内で初めて確認され、その後、感染者数が急速に増加したため、外出などの行動制限が行われ、国内外からの観光客数は激減し、観光関連業界は大きな打撃を受けました。発生から2年が経過した令和4年に入り、ようやく観光市場が回復基調に転じ、令和5年に新型コロナウイルスが感染症法上の第5類へ引き下げられたことにより、「アフターコロナ」社会への移行が始まりました。

そのような中、本市では人口減少社会の加速化や人生100年時代の到来、デジタル革命の進展など、観光を取り巻く環境の変化を踏まえ、令和6年3月に第4次伊東市観光基本計画を策定し、新たな方向性を打ち出しました。当該計画では、「思い出を紡ぐまち伊東～訪れる方にそれぞれの物語を～」を目指す姿とし、訪れる人それぞれがオンリーワンの伊東物語を紡ぎ、その蓄積が伊東の観光ブランドに昇華し、その魅力が更に人を伊東に惹きつけるという好循環を生み出す、持続可能な観光地域づくりを推進することとしています。なお、観光客入込数の推移は、表2-5及び図2-5に示すとおりです。

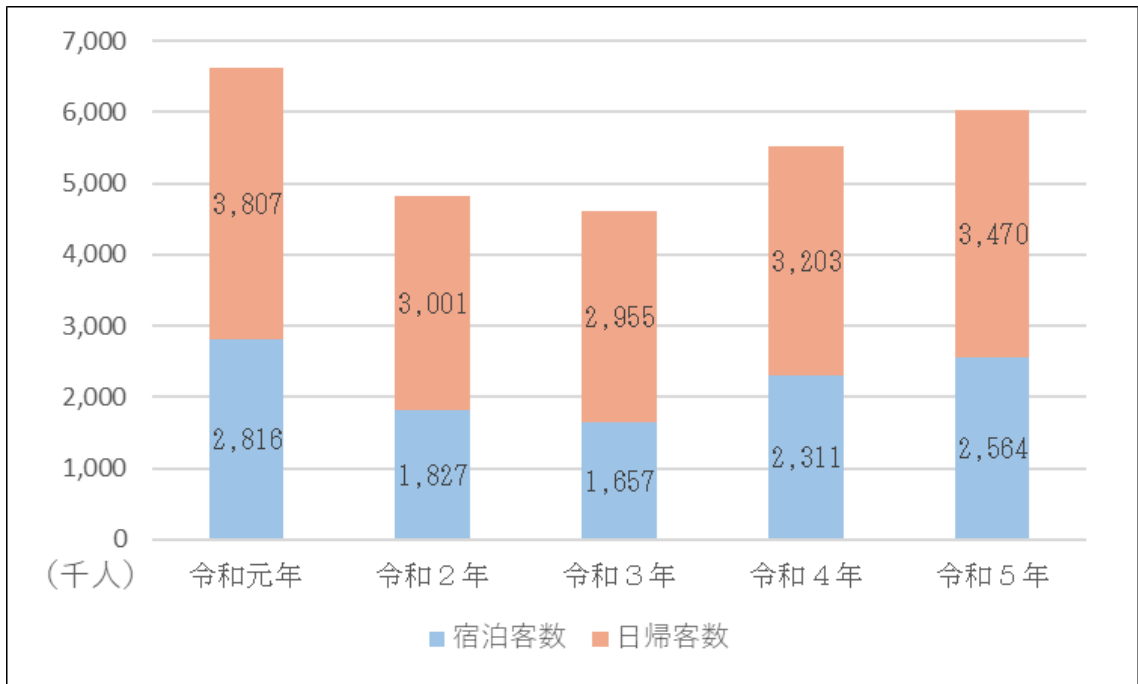
(参照：第4次伊東市観光基本計画)

表2-5 観光客入込数の推移

(単位：千人)

年	宿泊客数	日帰客数	総数
令和元年	2,816	3,807	6,623
令和2年	1,827	3,001	4,828
令和3年	1,657	2,955	4,612
令和4年	2,311	3,203	5,514
令和5年	2,564	3,470	6,034

(伊東市統計書)



観光客入込数の推移（図2-5）

## 2-5 土地利用

本市の土地地目別面積（有租地）は、田及び山林が減少傾向であり、宅地及び雑種地が増加傾向を示しています。畑及び原野についてはいったん増加したものの減少に転じています。

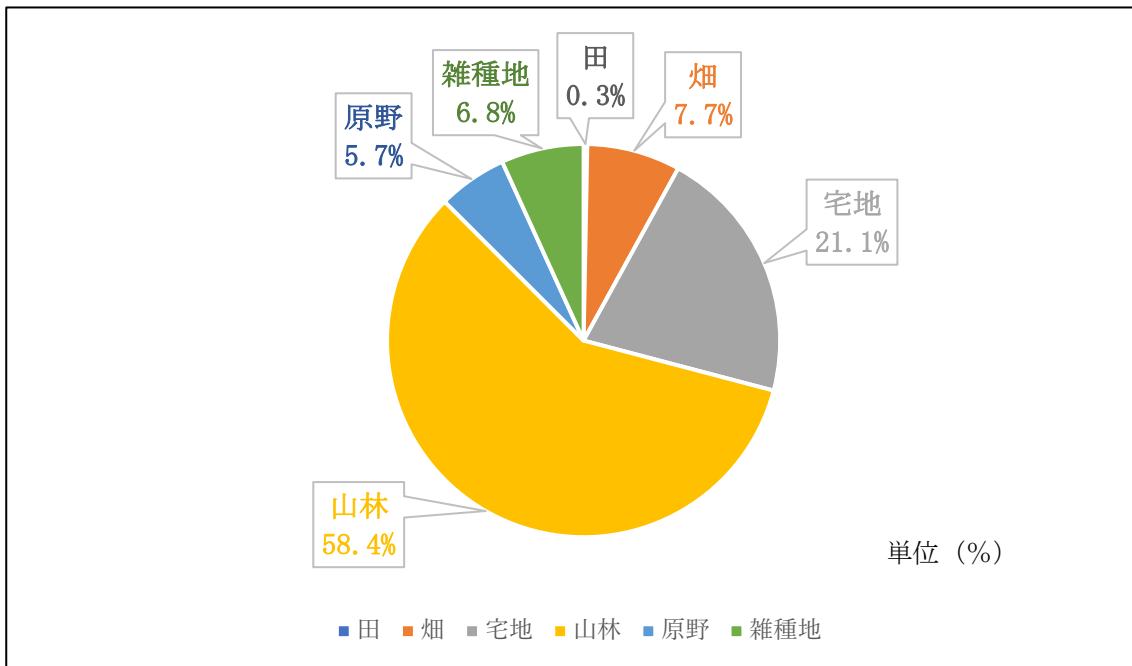
土地地目別面積の推移は表2-6に、令和5年の土地地目別面積割合は、図2-6に示すとおりです。

表2-6 土地地目別面積の推移（有租地）

（単位：千㎡）

年	田	畑	宅地	山林	原野	雑種地	合計
令和元年	352	7,553	20,503	57,848	5,399	6,394	98,049
令和2年	352	7,590	20,542	57,763	5,397	6,405	98,049
令和3年	351	7,674	20,582	57,369	5,610	6,454	98,040
令和4年	348	7,645	20,608	57,337	5,588	6,566	98,092
令和5年	345	7,553	20,666	57,197	5,585	6,616	97,962

（伊東市統計書）



令和5年 土地地目別面積割合 (図2-6)